

新風

平成26年8月27日
多治見市立陶都中学校
No.5

朝練の 顔ぶれ変わる 九月かな

多治見市立陶都中学校 校長 松山 央^{ひろし}

夏休みが終わりました。この夏は、集中豪雨の大きな被害のニュースに胸痛めることもありましたが、幸いにも校区においてはそのようなことはなく、かつ子ども達の大きな事故やけがもなく、無事に本日を迎えることができました。先ずもって何よりなことと嬉しく思います。

さて、毎年のことながらこの夏休みは、中体連を始めとする各種の試合やコンクールなど、子ども達がこれまで積み重ねてきたものを外に向かって発揮する貴重な期間です。この期間中、私としましては、少しでも自分の目で子どもたちの活躍を見ておきたい、校内ではわからない側面を是非この機会に把握しておきたいというような思いで、時間のゆるす限り外を回らせていただきました。

中体連では、東濃大会、県大会、東海大会と各競技の様子を見させてもらい、応援もさせてもらいました。そんな中で、保護者の方と直接お話ができたことや日頃お世話になっているクラブ指導者の方にご挨拶等ができたことは、私にとって大変貴重な機会となりました。残念ながらすべての種目というわけにはいきませんでした。見慣れた3年生の面々が、どのようにして自分たちの部活・クラブにピリオドを打っていったのかを、自分の目に焼き付けることができました。いつも部活の練習で先頭に立ち声を出していた3年生の涙は、きっと後輩への大きなメッセージとなったことと思います。

吹奏楽部にとっても大切な各種のコンクールがありました。いよいよ最後の大一番を前にしての校内練習は、側にもびりびりと部員の気迫が伝わってくるくらい集中したものでした。その他に、多治見市連合生徒会交流会があり、本校からは4人の生徒会メンバーが出席しました。文字通り各校のリーダーが一堂に会する中で、本校の生徒も堂々と意見を述べていました。また、つい先日には、東濃地区の英語スピーチコンテストが瑞浪市であり、2名の代表が出場しました。明確な発音に加え、豊かな表情と身振り手振りで語られる出場者の主張には、大いに驚かされました。

こうして、いくつかの子ども達の晴れ舞台を見て歩くうちに、この体験一つの重みを改めて感じたものです。電光掲示板が備わった本格的な競技場であったり、音響のすばらしいホールであったり、たくさんの観客に見つめられたりと、それこそ、足のすくむ思いをしたことでしょうか。ハラハラ・ドキドキの連続だったことと思います。でも、このハラハラ・ドキドキこそが自身を育てる大きな栄養剤になるのではないのでしょうか。心の安定ももちろん大事ですが、時にはハラハラ・ドキドキしながら自分自身の持てるものを仲間と共にしっかり出していくような体験は必要です。出来ることならどの子にも、少しでも多く、こうした体験を味わってほしいものです。その意味で今夏、本校の生徒は多くのことを学んだはずです。夏休みは終わりました。明日からの舞台は、学校です。体育祭に合唱祭。それこそ大きな行事が待ち受けています。一人一人の真摯なハラハラ・ドキドキ体験に期待をしたいものです。



家庭学習の習慣

多治見市教育委員会

多治見市 PTA 連合会と多治見市教育委員会が進めている、家庭で育みたい習慣や努力したい行動などをあらわした「新 家族の約束十二か条」があります。その1に「家庭学習の習慣が身につくよう努めましょう」があります。

子どもたちは長期の休みが終わり、学校生活中心の生活が始まりました。生活リズムを整えていくための「早寝・早おき・朝ごはん」はもちろんですが、家庭学習を自分で決めて学習するようにさせたいものです。この「自分でできる」ことが大切です。家庭での学習の内容や方法は学校でも指導しています。それを基にしながら、自分で決めて家庭学習をしなければ、やってよかったという達成感を味わったり、次への学習につながる疑問点はわいてきたりしません。子どもが自分で決めた学習で努力していたら、ぜひそこで「今日は自分で決めた〇〇〇をがんばってうれしいよ。」と一言かけましょう。